

CI インサイトレポート

－ 乾癬 2021 －

【 目次見本 】

§ レポート全体概要

調査対象 疾患	<p style="text-align: center;">乾 癬 <尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症></p>	
調査ポイント	<p style="text-align: center;">Bio (生物学的製剤)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 既存薬の処方状況（処方割合、ホジショニング 等）を疾患別に分析 ➤ 製品評価（strong/weak point）を薬剤別に分析 ➤ 新規薬剤（ビメキズマブ）のポテンシャル・処方動向を検証・予測 <p style="color: red;">⇒ 現状の処方実態を徹底分析！</p> <p style="color: red;">⇒ 今後の全体/薬剤別処方動向を徹底予測！</p>
	<p style="text-align: center;">新規経口剤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ TyK2阻害薬・JAK阻害薬のポテンシャル・処方動向を検証・予測 ➤ TyK2阻害薬・JAK阻害薬のスクリーニング検査の方向性、処方動向への影響度を検証 ➤ 他の経口剤（TYK2/JAK1、RORγアンタゴニスト）のポテンシャルを検証 <p style="color: red;">⇒ 新規経口剤の処方動向・市場形成の方向性を徹底予測！</p>
	<p style="text-align: center;">薬剤選択の 将来動向</p>	<p style="color: red;"><Bio、経口剤の新規薬剤の処方動向予測を踏まえた上で></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>今後の治療パラダイムシフトを疾患別に徹底予測！</u> （新規経口剤参入によるBio処方動向の変化は？）

■ 調査対象薬剤

既存薬	Bio (生物学的製剤)	TNF	レミケード、インフリキシマブ [®] BS、ヒュミラ、アダリムマブ [®] BS、シムジア
		IL-12/23	ステラール
		IL-17	コセンティクス、ルミセフ、トルツ
		IL-23	トレムフィア、スキリージ、イルミア
	経口剤	PDE4阻害薬	オテズラ
新規薬剤 (開発薬)	Bio (生物学的製剤)	IL-17 A/F	ビメキズマブ [®]
		IL-36	スペソリマブ [®]
		IL-23	ミリキズマブ [®] *
	経口剤	TyK2阻害薬	デュークラバシチニブ
		JAK阻害薬	ウパダシチニブ
		TYK2/JAK1阻害薬	brepocitinib
		ROR γ アンタゴニスト	-
	外用剤	AhRモジュレーター	タピナロフ

*IL-23 ミリキズマブは2021.4 乾癬に対する開発中止

§ レポートPart別概要

調査種類	Part I データ分析編	Part II 定量調査編	Part III KOLヒアリング編
調査手法	(オープンソースを基にした) データ分析	インターネットによるWEB調査	デプスインタビュー
調査対象医師/ 対象医師数	—	乾癬患者を診療している医師 計 175名 (All Bio User) ＜内 対象薬剤治験参加医 39名＞	乾癬 TOP KOL 3名 ＜関連学会 理事・役員＞
調査対象診療科 ＜施設種類＞	—	皮膚科＜HP/GP＞	皮膚科＜HP＞
調査内容	<p>＜既存薬＞ プロフィール、作用機序・特性、 薬価、販売高推移、臨床試験、 関連論文</p> <p>＜開発薬＞ プロフィール、作用機序・特性、 臨床試験、関連文献</p> <p>＜その他＞ 注目企業動向、学会情報</p> <p>＜別添＞ 抄録集（関連論文）</p>	<p>＜既存薬＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オテズラ処方状況 ● Bio薬剤別処方状況 ● 1st Bio処方状況 <p>＜新規経口剤＞ 対象：TyK2阻害薬、JAK阻害薬</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 薬剤別認知度 ● 薬剤別期待度・期待内容 ● スクリーニング検査の有無別処方意向・ ポジショニング <p>＜新規薬剤（開発薬）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 薬剤別認知状況 ● 薬剤別処方意向・期待度 <p>＜新規薬剤参入後のBio処方動向予測＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 临床上で必要な薬剤 ● 処方数増加が見込まれる薬剤 ● 今後の1st Bio <p>※項目全般において疾患別に分析</p> <p>等</p>	<p>＜既存薬＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オテズラ処方状況 ● 疾患別Bio処方状況 ● Bio薬剤別処方状況＊ <p>＜新規経口剤＞ 対象：TyK2阻害薬、JAK阻害薬</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 薬剤別評価/治療薬としてのポテンシャル分析 ● スクリーニング検査の方向性 ● 临床上での処方動向・ポジショニング予測＊ <p>＜新規薬剤（開発薬）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 薬剤別評価/治療薬としてのポテンシャル分析 ● 临床上でのポジショニング予測 <p>＜新規薬剤参入後のBio処方動向予測＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Bio全体処方動向予測＊ ● 疾患別Bio処方動向予測＊ ● Bio処方環境の変化動向予測＊ <p>＊の項目は、国内全体の実態/将来動向 についての検証/予測を含む</p> <p>等</p>
調査実施時期	2021年 4月～5月		
体裁／頁数	Part I・・・PPT（or EXCEL）、Part II & III・・・PPT / A4 計約350ページ（報告書本編のみ、別添は含まない）		
レポート価格	レポート本編 ※オプション	フルセット＜3パート＞ ロウデータ ロウデータ＋ターゲットマッチング	180万円（税別） 60万円（税別） 70万円（税別） ＊Part別販売 可

< Part I データ分析編 目 次 >

調査概要	3
I. 既存品	4
I -1. プロファイル	5
I -2. 作用機序・特性	13
I -3. 薬価	25
I -4. 販売高推移	33
I -5. 臨床試験（UMIN）	34
I -6. 臨床試験（JAPIC）	37
II. 開発品	38
II -1. プロファイル	39
II -2. 作用機序・特性	42
II -3. 臨床試験（JAPIC）	44
III. 関連企業動向	46

IV. 学会情報	57
IV-1. 日本乾癬学会	58
IV-2. 日本皮膚科学会	68
IV-3. 日本皮膚科学会東部支部	78
IV-4. 日本皮膚科学会中部支部	80
IV-5. 日本皮膚科学会西部支部	83
IV-6. 日本皮膚科学会東京支部	88
IV-7. 日本皮膚科学会東京・東部支部	92
IV-8. 日本臨床皮膚科医会	95
IV-9. 日本研究皮膚科学会	98
IV-10. 日本リウマチ学会	103
V. 関連文献	105
V -1-1. 既存品・製品別	106
V -1-2. 既存品・複数	117
V -2-1. 開発品・製品別	123
V -2-2. 開発品・複数	127
V -3. 既存品+開発品	128

< Part II 定量調査 要約編 目次 >

調査概要	3
回答者プロフィール	4
§.Executive Summary	5
§.Summary	15
1)乾癬患者の診療状況	16
2)オテズラの処方状況・評価	21
3)生物学的製剤の処方状況・評価	26
4)新規経口剤の認知状況・処方意向<TyK2/JAK阻害薬>	46
5)開発薬の認知状況・処方意向・期待内容	53
6)生物学的製剤の今後の処方動向	63

< Part II 定量調査 結果編 目次 >

調査概要	3	4) 新規経口剤の認知状況・処方意向 <TyK2/JAK阻害薬>	49
回答者プロフィール	4	4-1.認知状況	50
§ 調査結果	5	4-2.項目別期待度（生物学的製剤との比較）	51
1) 乾癬患者の診療状況	6	4-3.項目別メリット/デメリット（生物学的製剤との比較）	53
1-1.乾癬患者数（直近3ヶ月間）	7	4-4.スクリーニング検査の有無別処方意向	54
1-2.直近3ヶ月間の薬剤種類別処方状況	9	4-5.スクリーニング検査の有無別ポジショニング	56
2) オテズラの処方状況・評価	15	5) 開発薬の認知状況・処方意向・期待内容	57
2-1.薬剤評価	16	5-1.薬剤別治験参加状況	58
2-2.生物学的製剤への移行状況	18	5-2.薬剤別認知状況	59
2-3.生物学的製剤への非移行理由	21	5-3.薬剤別処方意向・期待度	64
2-4.今後の処方動向	22	5-4.薬剤別期待ポイント	71
3) 生物学的製剤の処方状況・評価	23	6) 生物学的製剤の今後の処方動向	79
3-1.臨床上での処方薬剤	24	6-1.疾患別処方動向	80
3-2.直近3ヶ月間の薬剤別処方状況	26	6-2.処方薬剤を決定する際に重視する項目	81
3-3.第一選択薬(1st Bio)を決定する際に重視する内容	32	6-3.臨床上で必要な薬剤	82
3-4.第一選択薬(1st Bio)処方状況	33	6-4.処方数増加が見込まれる薬剤	85
3-5.有効性を評価する際に重視する内容	36	6-5.第一選択薬(1st Bio)として処方頻度が高くなる薬剤	92
3-6.薬剤評価	41	6-6.処方薬剤変化動向	96
		6-7.薬剤選択の際に参考にするチャネル	100

< Part Ⅲ K O L ヒアリング編 目 次 >

調査概要	3
§ Summary	5
§ 調査結果	17
1. オテズラ処方状況	18
2. Bio処方状況	21
3. 疾患別Bio処方状況	24
4. Bio薬剤別処方状況	26
5. 新規薬剤（開発薬）の評価	35
6. Bio処方動向予測	41
7. 疾患別Bio処方動向予測	44
8. Bio処方環境の変化動向予測	46